

担い手通信

JAバンクは地域の担い手を応援します

今月の話題

国産麦 東京にPR拠点

加工品の全国進出後押し

全 国米麦改良協会は6月27日、国内初となる国産麦のアンテナショップ「むぎくらべ」を7月2日に東京都千代田区に開店すると発表しました。調理設備を完備し、出来たての料理が提供できる他、加工商品の展示販売が可能。JAや製パン・製麺業者に開放し、わずかな費用で1週間の期間を基本に出展できます。消費者の反応を確かめる拠点とし、麦加工食品の全国進出を後押しします。

アンテナショップの住所は、東京都千代田区神田

小川町2の1の1。人通りの多いオフィス街に設置しました。麺用のゆ

で釜やパン用オーブンなど基本的な調理設備を完備。店内には23席の飲食スペースを設けています。商品を展示販



売する際は、店内陳列棚に出品。遠方などで出展者の上京が困難な場合、商品を郵送し、陳列・販売を委託することもできます。

出展費用は光熱費として、売り上げの5%を支払います。店内の給仕や会計担当の店員も協会が用意。出展者は売り込みや調理作業に専念できます。食材や調理器具、商品を地方から同店に運ぶ際の輸送費は協会が全額負担します。地方や中小の業者は、資金や人員確保が難しく、販促活動を十分にできないとの傾向がありますが、その課題を解決できます。同協会は「特産物を全国展開する足掛かりにしてほしい」と

呼び掛けます。

営業時間は平日の午前10時～午後6時。問い合わせは事務局を務める運営会社力タボー、(電)03(6)811-0595。

今が旬
この言葉

農場
HACCP

農場HACCP(危害分析重要管理点)は、農場の衛生管理などを明確にし、畜産物や加工品の安全性を保証する制度です。中央畜産会などが中心となり認証を進めています。中央畜産会は7月から農場HACCPの認証マークを、精肉やハムなどの畜産物にも表示できるようにしました。国際的に通用する基準を設定しているため、海外に販路拡大を検討する農場にとっては、大きなPR材料になります。

飼料用米の低コスト乾燥体系を確立 生産拡大を後押し

三重県農業研究所は、新たに飼料用米の乾燥体系を発表しました。新たな体系は、収穫後の籾米を生籾の状態です。玄米で乾燥させることにより、低コストな乾燥体系を実現しています。籾すりには水分の高い籾米への適応性が優れるインペラ式籾すり機を用い、乾燥には循環式乾燥機を利用します。

これまでの飼料用米においても主食用米と同様、籾米で乾燥する体系でした。新たな乾燥体系では、玄米で乾燥させることにより、灯油消費量は5割減、作業時間と電力消費量は4割削減できます。また、乾燥機内の充填率を4割程度削減でき、1台の乾燥機で1回に乾燥できる飼料用米の重量を増やすことができます。この乾燥体系においても、籾米での乾燥と同等の歩留まり、飼料成分値となります。ただし、水分の多い生籾を籾すりすると処理能力と脱ぶ率が低下するため、主食用米に比べて収穫時の籾米水分が低くなつてから収穫する必要があります。今後、インペラ式籾すり機の処理能力を高めることで籾すりの能率改善が期待できます。



インペラ式籾すり機。生籾の脱ぶを行います。

お問い合わせ先 三重県農業研究所 農産研究課 ☎ 0598-42-6359

県内NEWS

(日本農業新聞より)

■ JA松阪

モロヘイヤ出荷ピーク 露地物 上々の出来

県内トップのモロヘイヤ産地のJA松阪管内で、露地栽培のモロヘイヤの出荷がピークを迎えている。6月下旬以降の気温の上昇と適度な雨により、生育が活発となり上々の出来栄え。営農担当者は「積極的に注意喚起を行い、連日の猛暑と水不足の影響を抑えることができた。出荷量も例年通りを見込む」と話す。管内は、全国でも有数のモロヘイヤの産地。現在は、ハウス栽培と露地栽培の二つの方法で、生産者111戸が約4.8ヘクタールで栽培。ハウス栽培は4月下旬から、露地栽培は6月下旬から出荷を開始した。

(2018/8/18 県版三重)

■ JA伊勢

ミカン園地で児童が相互交流

三重県の南伊勢町立南勢小学校と岐阜県の高山市立久々野小学校の5年生合わせて58人は7月下旬、JA伊勢管内のミカン園地で相互交流会を開いた。お互いの自然や暮らしを体験するなかで友情を結ぶとともに、郷土への愛着、地域の人たちへの感謝の気持ちを育むことが目的。参加した児童の一人は「今日のミカンがいつも食べている大きさに育って、久々野小学校の子たちへ贈るのがとても楽しみ」と話した。

(2018/8/10 ワイド2東海)

■ JA鳥羽志摩

鳥獣害対策に助成

JA鳥羽志摩は、深刻化している有害鳥獣による農作物の被害を食い止めようと本年度、生産者らを対象に対策費用への助成を始めた。電気柵一式、ワイヤメッシュなどの購入や設置について、8万円以上の購入設置費用に4万円を助成するものだ。ポスターを作り、管内各店舗で掲示、広報誌やホームページでも周知したところ、現在までに13件の申請があり助成を行った。来年3月末まで実施している。

(2018/7/25 ワイド1東海)

明日の農業を担うみなさまへ
JAバンクは地域農業を
応援します！

- ◆トラクターなどの
農業用機械の購入資金
- ◆栽培用ハウス・畜舎など
農業用施設の建設資金
- ◆その他農業経営に必要な資金

農業を営むすべての方に

農業経営資金

対象期間／平成30年4月2日～平成31年3月29日

農業者の皆様のご負担金利を**5年間軽減**いたします。

JAバンク利子補給制度 **3年間**と
当JA金利引き下げ **2年間**措置の対象となります。
利子補給および金利引き下げの適用イメージ～変動金利型の場合～

《お借入金利》 変動金利 年 1%	-	《JAバンク利子補給・金利引き下げ》 年 0.8%	=	実質 年 0.2%
-----------------------------	---	-------------------------------------	---	------------------

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>
平成30年8月現在

※JAバンク利子補給・当JA金利引き下げ後のご負担金利は0.2%を下回らないように調整されます。
※イメージは実際とは異なる場合がございます。詳しくはお近くのJAバンクまでお問い合わせください。
※JAバンク保証料助成により、実質保証料が0円となります。